

# 小島地区ふれあいセンターだより

令和8年6月 第432号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



## 6月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
2日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
3日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
5日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
12日(金)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
17日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
25日(木)	小島地区連合自治会連絡会議	
27日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

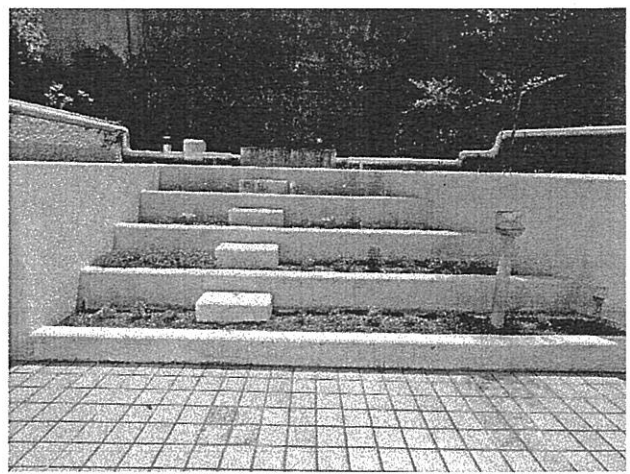
## 花に癒されながら楽しく活動しましょう

小島地区ふれあいセンターでは、利用者の皆様に、楽しみながら施設を御利用いただきたいとの思いで、花のある環境づくりを心がけています。

正面入口前のプランターには、寄せ植え風に花を植えています。

又、児童図書館の外側の花壇には、階段状に草花を植えています。

ふれあいセンターにお越しの際は、花を御覧になり、楽しまれてはいかがでしょうか。



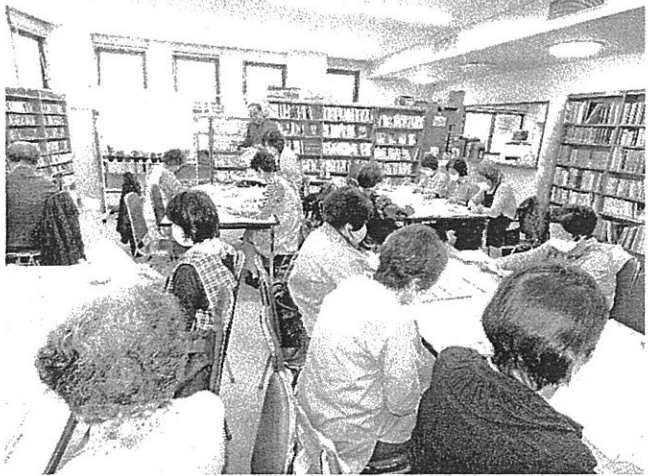
### 「春の園芸教室」講座について

四月二十五日（土）に、小島地区ふれあいセンターの主催講座として、講師の沖迫司先生（フラワーおきさこ代表）による「春の園芸教室」を開催しました。

テーマは「寄せ植えの基本・花苗を植える」で、二十二名の方が参加されました。

寄せ植えには、マリーゴールド、サルビア、ペチュニア、バーベナ、ガザニア、トレニア、ベゴニア、ロベリア、コリウス、ポーチュラカ、メランポジウムなどの花が用いられました。

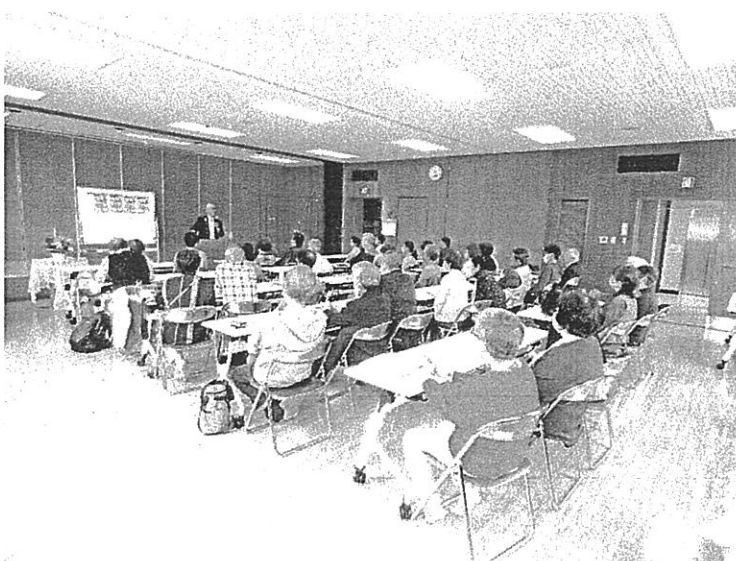
参加者の皆さんは、和気あいあいと楽しそうに、美しい春の花の寄せ植えをされました。



### 「春の歴史講話」講座について

四月二十九日（水）に、小島地区ふれあいセンターの主催講座として、講師にテレビ等で馴染みの山口広助さんをお迎えして「春の歴史講話」を開催しました。

四十五名の参加者の皆さんは、山口さんによる小島地区界隈の「よもやま話」を交えた分かりやすい地名の由来や、歴史の紹介などを興味深く聞きながら、午後のひとときを楽しく過ごされました。



○小川風(ハタ)店(長崎風(ハタ)資料館)

・長崎では風のことを「ハタ」と言います。

・この店は作業場と展示場が一緒となったハタ資料館となっています。

・長崎のお座敷歌(民謡)「長崎ぶらぶら節」の歌詞にもハタ揚げが出ています。

・現在、4月に唐八景、金比羅山等でハタ揚げ大会が開催されています。そこそこの賑わいを見せています。

○風頭山(かざがしらやま)

・見たとおりの全体が岩で出来た岩山です。周りの遊歩道を歩いてもいいですし、岩山を歩いていただいてもいいかと思えます。雨の日は足元が滑りますから特段の注意が必要です。遊歩道は春には桜の花のトンネルとなり、山全体が、長崎のお花見の名所のひとつとなっています。

○通事の墓、通詞の墓(つうじのはか)

・通訳を唐通事とオランダ通詞と使い分けています。

・唐通事 中国(明・清)貿易の通訳、貿易の当事者でもあり、商売も手掛けます。

・阿蘭陀通詞 単にオランダ語の通訳、貿易が幕府により制限され商売は出来ない。

・道なりの左側、下方に入ったところ。加福家の墓、阿蘭陀通詞。

・道のすぐ左側、林・官梅家の墓、唐通事。歴代通訳を務めた家系。

○上野彦馬の墓 1838(天保9)〜1904(明治37)

・父 上野俊之丞(写真機を日本に初めて輸入(1848))、このカメラで薩摩藩主の島津斉彬を藩士によって写させる。1857(安政4)6月1日が写真の日となります。

・有名な龍馬の写真は上野写真局の庭で撮った写真。1867・1月(慶応3)

・彦馬は戦場カメラマン(今の渡部ヨウイチ)。西南の役に従軍(明治10)しています。

・金星観測(明治7) フランス隊(金比羅山、アメリカ隊(星取山(太平山))

当日、雨のため成功しなかったようです。

「小倉百人一首」を読み解く 竹方其

二十四番歌(菅家・菅原道真)  
かんけ すがわらのみぢまね

このたびは弊も取りあへず手向山紅葉の錦神のまにまに

〔語訳〕

この度(旅)は急なことで、道中の安全を願って捧げる御幣も用意することが出来ませんでした。代わりに手向けの山の紅葉を捧げますので、どうかお心のままにお受け取りください。

〔留意点〕

・この歌は宇多上皇(朱雀院)の宮滝御幸の時に詠まれた歌。菅原道真が全盛期のときに自分を最も可愛がつてくれた宇多上皇の秋の紅葉狩りに同行し、「神のみ心のままに、目の前に広がる素晴らしい紅葉を捧げます」と詠んでいるのが、この歌です。

・この歌の上の句「このたびはぬさもとりあへず」、御幣を取り揃える間がなかった、が問題。御幸の準備は前もってされ多くの貴族が旅するわけですから御幣を忘れましたというのはいりえない。道真が言いたかったのは、この錦のような見事な紅葉は、自分たちが楽しむものではなく、御幣以上の神への捧げものであると言いたかったのではなからうか。





〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	あなたの命綱	久坂部 羊	朝日新聞出版
	泣くな道真	澤田 瞳子	集英社
	別辞	芝村 涼也	双葉社
	ゲートルがくれた命	佐々木 寿美子	幻冬舎
	育て方がよくわかる盆栽図鑑	広瀬 幸男	日本文芸社
	すべてを蒸したいせいろダイエット	りよ子	Gakken
	失われた貌	櫻田 智也	新潮社
	明日、あたらしい歌をうたう	角田 光代	水鈴社
	藤井聡太の振り飛車破り	渡辺 和史	日本将棋連盟
	それでも民主主義を信じる	宇野 重規	青土社
	れんげ出会茶屋	泉 ゆたか	双葉社
	プサン	—	昭文社
	聞き耳幻八 暴き屋侍 [3]	吉田 雄亮	コスミック出版
	ながい坂 上巻	山本 周五郎	新潮社
	ながい坂 下巻	山本 周五郎	新潮社
	おやごころ	畠中 恵	文藝春秋
	長崎幽学 16	—	長崎文献社
	本日は、お日柄もよく	原田 マハ	徳間書店
	どこ吹く風	佐藤 正午	岩波書店
	誓いの証言	柚月 裕子	KADOKAWA
俺の恋バナを聞いてくれ	新川 帆立	小学館	
花を編む	平野 孝子	日東書院本社	
一人がいいのに独りはさびしい	生野 信弘	扶桑社	
上司の「コミュカ」大全	澤田 清恵	ダイヤモンド社	
ごんげん長屋つれづれ帖	金子 成人	双葉社	
児 童 図 書	そうっとそうっと	田中 友佳子	徳間書店
	ハチは救急車ねこ	なかがわ ちひろ	徳間書店
	わにおのわのじはどうかくの？	乾 栄里子	福音館書店
	アントニ・ガウディ	鳥居 徳敏	KADOKAWA
	こいのぼりぐんぐーん	おおい じゅんこ	ほるぷ出版